

実践報告 (Report)

保育者・教師養成課程で学ぶ学生の「将来に役立つ学びの促進」を目指した授業の試みについて(1)

——「手書き A3 課題」を授業に活用することの意義——

An attempt in class to enhance learning for the future of the students in the training course of nursery and elementary school teacher (1): the meaning of introducing “handmade A3 task” into the lesson

服部 次郎*
HATTORI, Jiro*

キーワード：将来に役立つ学習，手書き A3 課題，発表体験

Key words：Enhancing learning for the future, Preparatory Task (Handmade A3Task), Experiences of Presentation

1. 研究の背景と目的

筆者は、IT 機器が多用される現代において、便利さの故に学生の潜在的能力がそこなわれることがないようにするための学習手段のひとつとして、与えられた課題に対して学生自らが「手書き」により取り組む学習法の効果を探求してきた。IT 技術の著しい進歩に代表されるような移り変わりの激しい現代においても、自分の持てる力を最大限発揮し、工夫して問題解決ができる人材の育成をしたいと考えているためである。そのため大学の授業等においても、深めてほしいテーマについて、初めに学生に課題を与え、次にその課題について調べ学習をさせ、時間が許せば、テーマについてグループで意見交換をした後に、まとめの発表をクラスでさせている。その後、学習成果を各自で A3 用紙 1 枚（表裏利用）に「手書き」でまとめさせるという学習法（以下 A3 課題と呼ぶ）を実践してきた（服部 2014a, b；服部 2015）。この実践により、これまで、筆者は学生の「学びの主体性」を育てることができたと判断してきた（服部 2014a）。しかし継続的に研究していくと、学生の学習環境や学生自身の考え方の変化もあるためか、最近の筆者の研究調査結果においては、手書き A3 課題が必ずしも、「学びの主体性」を高めるとは言えないという否定的な統計的結果が出た（服部 2018）。その一方で、学生の自由記述を読んでもと、A3 課題に取り組むことの意義として、「深い学びにつながる」、「学習の定着に効果がある」、「将来の自分の仕事のためになる」などというものが多く見られた。このため、今回は A3 課題に取り組むことの意義を、これまでのような「学びの主体性」という視点だけに限定するのではなく、より広い視点から再検討してみることにした。

このような時に、筆者の研究テーマに関連すると思われる記事が目に入った。それは最近の新聞（日本経済新聞 2018 年 3 月 31 日夕刊）の「アプリよりあえて手書きで」

という記事である。少し記事を紹介すると「スマートフォンの家計簿アプリが注目を集めるなか、紙の家計簿が見直されている」「手を動かして書くことで出費を強く意識できるし、ページをめくれば前月や前年の家計の全体像がすぐわかる」などとある。また「マクロミルが今年1月、家計管理に使っているツールについて聞いたところ、『何も使っていない』という答えが4割強で最も多かったが、2位は『紙の家計簿』(27%)で、家計簿アプリ(15%)を上回った」とあった。この記事の内容から、IT機器などが大いに活用される現代にあっても、人間は、便利な機器ばかりに頼るのではなく、「自分自身の持てる力で課題・問題に対応し、解決したい」、「自分で考える過程を大切にしたい」、さらに「全体を見渡して対応したい」などといった気持ちを強く持っていると感じた。上記のことも念頭に置いて、今回の研究では、以下の6つの仮説を検証するとともに、より広い視点からA3課題は学生にとって「役に立つ学習方法」であることを明らかにする。

1. A3課題に取り組み、まとめることは、「自分の将来の仕事」に役に立つ
2. A3課題に取り組むことは、「自分自身の学び」において役に立った
3. A3課題作成の際に、パソコン等の機器ではなく、「手書きで課題を作成すること」は「自分自身の学び」において効果があった
4. A3課題において、「キャラクターも含めた図等を活用すること」は、「自分自身の学び」において効果があった
5. A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などをすることは、作成上効果があった
6. A3課題作成において、「選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があること」は、課題に積極的に取り組む上で効果があった

2. 研究の方法

アンケート用紙（資料1：改訂版）を作成し、筆者の授業「社会的養護」（2年生後期科目）を受講する保初2年生の全学生81名（用紙提出者は78名）を対象に実施し、仮説の妥当性を検討した。アンケートの各設問については、5つの選択肢を設け、5段階評価を採用し、選択肢5には5点、4には4点、3には3点、2には2点、1には1点を付与した。

3. 結果

アンケートの問1の集計結果を表1に示す。A3課題が「役に立つ」とする学生が89%いる一方で、「役に立つ」とは考えていない学生も12%存在した。5段階評価で、平均値は4.1であった。

表1. アンケートの問1の集計結果。今回実施したA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の仕事に役に立つと思いますか（%の数値は、小数点以下四捨五入）。

5 とても 役に立つ	4 ある程度 役に立つ	3 どちらとも いえない	2 あまり 役に立たない	1 まったく 役に立たない
17名 (22%)	52名 (67%)	9名 (12%)	0名 (0%)	0名 (0%)

アンケートの問2の集計結果を表2に示した。自分自身の「学びに役に立った」とする学生は86%、「役に立ったとはいえない」とする学生が15%という結果で、5段階評価で平均値は4.2であった。

表2. アンケートの問2の集計結果。A3用紙による課題に取り組むことは、自分自身の「学び」において、どの程度、どのような点で役に立ったと思いますか。

5 とても 役に立った	4 ある程度 役に立った	3 どちらとも いえない	2 あまり役に 立たなかった	1 まったく役に 立たなかった
21名 (27%)	46名 (59%)	9名 (12%)	2名 (3%)	0名 (0%)

アンケートの問3の集計結果を表3に示した。「A3課題」作成の際に、手書きで課題を作成することが「自分自身の学びにおいて効果があった」とした学生は88%、一方「効果があったとはいえない」とする学生が12%という結果で、5段階評価で、平均値は4.1であった。

表3. アンケートの問3の集計結果。問3 今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の「学び」において、どの程度、またどのような点で効果があったと思いますか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
19名 (24%)	50名 (64%)	9名 (12%)	0名 (0%)	0名 (0%)

アンケートの問4の集計結果を表4に示した。「学びにおいて効果があった」とする学生は81%、「効果があったとはいえない」とする学生が19%で、5段階評価で、

平均値は4.0であった。

表 4. アンケートの問 4 の集計結果。問 4 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3 課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、自分自身の「学び」において、どの程度、そのような点で効果があったと思いますか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
17名 (22%)	46名 (59%)	11名 (14%)	4名 (5%)	0名 (0%)

アンケートの問 5 の集計結果を表 5 に示した。「効果があった」とする学生は 75%，「効果があったとはいえない」とする学生が 26% という結果で、5 段階評価で、平均値は 3.8 であった。

表 5. アンケートの問 5 の集計結果。問 5 A3 課題作成のため、討論・まとめ・発表などをすることは効果があったと思いますか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
9名 (12%)	49名 (63%)	16名 (21%)	4名 (5%)	0名 (0%)

アンケートの問 6 の集計結果を表 6 に示した。選択肢があったことで「A3 課題に取り組みやすくなった」とする学生は、71%，「取り組みやすくなったとはいえない」という学生が 28% で、5 段階評価で、平均値は 3.9 であった。

表 6. アンケートの問 6 の集計結果。問 6 A3 課題作成において、選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったと思いますか。

5 とても あった	4 ある程度 あった	3 どちらとも いえない	2 あまり なかった	1 まったく なかった
19名 (24%)	37名 (47%)	16名 (21%)	5名 (6%)	1名 (1%)

次に、上記の結果の具体的内容を学生の自由記述から詳しく見てみたい。問 1 で

は、89%の学生が「自分の将来の仕事に役に立つ」としている。具体的理由として、次の3点が挙げられる。

- ①イラストも利用してまとめるというのが保育士になった時も、子どもや保護者にわかりやすく伝える点で大切になると思うから
- ②掲示物などを作る時の絵を描いたり、園からのおたよりをまとめて読みやすくなると思うから
- ③保育をしていて気になる子がいたら、その子の行動をまとめるなどの場面で役立つと思うから

つまり、保育園等において掲示物などを読む相手にとって読みやすくするための、あるいは保護者に対して分かりやすく伝えるための能力を身につけることができること、そして保育する上で児童の行動を記録にまとめる能力にも役立つというのが主な理由であったと思われる。

問2では、86%の学生が、自分自身の「学び」において役に立ったとしている。どのような点で役に立ったかについては、次の4点が記述された。

- ①自分で調べながらまとめることで理解が深まり記憶に残るため
- ②必要な情報を、より分かりやすく要約する力が身についた
- ③興味がでてきた時、もっと知ろうと調べることでより深まり、製作時間をかけるほど、自分のものに愛着がでてきて、ながめて、何度も見てしまうので、理解がしやすい
- ④自分の「保育観」を考えなおすきっかけになった

取り組む課題の内容理解が深まり記憶に残ること、分かりやすく要約する力が身についたこと、さらに時間をかけただけ愛着がわき、より多く見るので理解が深まったこと、そして自分の保育観を考え直すきっかけになるという点でも役に立つという。

問3では、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の「学び」において効果があったとした学生が88%いた。効果があった理由として、次の5点が記述されていた。

- ①手書きの方が達成感があるし、図を描くことによって個性も発揮できるため
- ②手書きをすることでより記憶に残った
- ③自分の手で書いているので内容が自然に頭に入ってきて、ふとしたときに「A3で書いた！」と思い出せる
- ④限られたスペースでまとめる力やイラストの力が身についた
- ⑤真っ白な紙に自由に文字やイラストをかくことができたので、デザインをする力が上がったと思う。視覚的に見やすく、内容的に分かりやすいものになるよう、配置や色を考える

真っ白なA3用紙に手書きで取り組む課題であるため、自由に文字やイラストをかくことができて、デザイン力も上がり、自分の個性も発揮できる、さらに手書きで苦労して完成させる分、達成感もあり、自分の記憶にも残る利点があるという。

問4では、キャラクターも含めた図等を活用することは自分自身の「学び」において効果があったと思いますか、に対して81%の学生が効果があったとしている。その理由として、次の3点が挙げられた。

- ①作るごとに、自分の絵の力が上がっているような気がしたし、かけるキャラクターのバリエーションが増えた
- ②保育士になった時にこういう風にかいたらかわいく見えるなど自分なりに研究することができた
- ③色の配色なども含めどうしたら分かりやすくまとめられるのか考えることができた
絵を書く能力の上達や相手にわかりやすくするにはどうしたらよいか考え、研究することができたことが学びの効果としてあげられた半面で、「読み手に興味をもたせやすくすると思う。しかし、一方でとにかく描いてうめるという感じもあり、内容が薄くなっているのでは？」という記述もあった。

問5では、A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などをするのは効果があったとする学生が75%を占めた。その理由については、次の3点が挙げられた。

- ①討論で話したことをまとめると、理解がより深まるし自分とはちがった視点で理解できた
 - ②他の人の意見も知ることができ、自分の考えの視野が広がった
 - ③自分で調べて発表しているので、すごく覚えている
- 討議・まとめ・発表という過程を経ることで、理解が深まること、考えの視野の広がること、そして記憶に良く残ること、が良いとの評価であった。

最後に、問6の、「選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったかどうか」については、71%の学生が、効果があったとしている。その理由としては、次の2点が記述された。

- ①選択して書くことで、書きたいことが書けて楽しく取り組めた
 - ②好きな方を選べるということでやる気はあがる
- 課題に楽しく取り組み、やる気が出ることが選択制の良さとして挙げられている。

考 察

仮説1の「自分の将来の仕事に役に立つ」については89%の学生が「そう思う」としている。デシ（1999）は、『『できる』という感覚が、内発的動機づけと外発的動機づけの両方にとって重要である（中略）内発的動機づけがもたらす『報酬』は、楽しさと達成の感覚であり、それは、人が自由に活動をするとき自然に生じる。したがって、その仕事をこなす力があるという感覚は、内発的な満足の重要な側面である。上手くこなせるという感覚それ自体が人に満足感をもたらす。そして、生涯にわたる職業へと導く最初の力にもなりうる。仕事に打ち込めば打ち込むほど、いつそうそうした感覚を得ることができることに気づき、いつそう大きな内発的な満足を経験

するだろう。」(pp. 86-87)と述べている。保育・教育の分野へ進むことを考えている学生は、自由記述において、例えば「イラストも利用してまとめるというのが保育士になった時も、子どもや保護者にわかりやすく伝える点で大切になると思うから」と述べており、A3課題に取り組むことで、「将来の仕事に必要とされる能力」を身につけられると実感でき、「役に立つ」と回答したものと考えられる。

仮説2の「自分自身の『学び』において役に立った」については、86%の学生が「そう思う」としている。この点に関しても、デシ(1999)は、「有能感は、自分自身の考えで活動できるとき、それが最適の挑戦になるときにもたらされる。ここでは、最適の挑戦というのがキーワードになる。取るに足らないやさしいことができて有能感を感じることはできない。達成に向けて努力する時にのみ有能感を感じることができるのである。」(pp. 88-89)と述べている。学生の自由記述には、A3課題に取り組む中で「もっと知ろうと調べることでより(理解が[筆者補足])深まり、製作時間をかけるほど、自分のものに愛着がでてきて、ながめて、何度も見てしまうので、理解がしやすい」や「浅い理解だったことも、(A3課題に[筆者補足])まとめることで、改めて調べ直して、深く理解することができるから」などと述べており、達成に向けて努力することで自分の製作物に愛着を感じ、理解が深まることで有能感を感じることができるため、「役に立った」と回答したものと解釈できる。

仮説3の「パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の『学び』において効果があった」については88%の学生が「効果があった」としている。デシ(1999)の「人はみな自己原因性を求めている。つまり、人は自分自身の行動の源泉でありたいと願っている。(中略)人には、自分の自律性あるいは自己決定の感覚ード・シャームが自己原因性と呼んだ感覚一を経験したいという生得的な内発的欲求があると思われる。」(pp. 39-40)という記述や、「内発的動機づけがもたらす『報酬』は、楽しさと達成の感覚であり、それは、人が自由に活動をするとき自然に生じる。」(p. 87)という記述にあるように、A3課題における「手書き」の意義は、一つにはA3用紙という空間的な制限がある中でも、その空間を自分自身で工夫して、自由に使うことができること、二つには手書きで自分自身が苦労して取り組む分、生み出された製作物に自分の個性が反映されると同時に、自分にしかできないものを表現できるという『自己原因性』や達成感を感じることができるため、「学びの効果があった」と回答したものと解釈できる。この点は、例えば、「手書きの方が達成感があるし、図を描くことによって個性も発揮できるため」などといった学生の自由記述にも表れている。また、先にとりあげた「アプリよりあえて手書きで」という記事の「手を動かして書くことで出費を強く意識できるし、ページをめくれば前月や前年の家計の全体像がすぐわかる」という手書きの効果や、「自分にしかできない家計簿を作りあげることができた」という満足感にも通じるものがあると考えられる。このようにA3課題を作成することは、「自分自身の持てる力で課題・問題に対応し、解決したい」、「自分で考える過程を大切にしたい」、さらに「全体を見渡して対応したい」と

いう人の欲求や『自己原因性』にも通じるものといえよう。

仮説の4では、「キャラクターも含めた図等を活用することは、自分自身の「学び」において効果があった」について、「効果があった」とした学生が81%いた。その理由として、「作るときに、自分の絵の力が上がっているような気がしたし、かけるキャラクターのバリエーションが増えた」や「保育士になった時にこういう風にかいたらかわいく見えるなど自分なりに研究することができた」などが、学びの効果としてあげられた。これは鈴木(2004)が「文脈を作るためのストーリー性や楽しむためのゲーム性を取り入れた問題解決型の教材構成という特徴は、……学生に対する興味や関心を喚起するために考案された指導方法であり、内発動機を高める事が、学力をつける最大の武器であるという論拠に基づいた方法である。」(p.133)と述べているように、手書きA3課題作成において、キャラクターも含めた図等を活用することは将来保育・教育の仕事をする際に役に立つため、効果があったとした理由と考えられる。その一方で、「読み手に興味をもたせやすくすると思う。しかし、一方でとにかく描いてうめるという感じもあり、内容が薄くなっているのでは？」という学生の記述は、今後考慮する必要があると考える。

仮説の5、「A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などを行うことは効果があった」については、「効果があった」とする学生は75%であった。その理由については、グループでの討議・まとめ・発表という過程を経ることで、理解が深まること、考えの視野の広がること、そして記憶に良く残るということなどがあげられている。鷲尾(2012)は、「グループ学習によって(中略)テーマへの興味が芽生え、活動への意欲が高まり、自ら学習を進める学習姿勢が生じる。その結果を他者や他のグループに発表したり、発表を聞いたりすることで学習を振り返り、テーマに関する知識を深めて、学習終了後の達成感とその分野への興味関心が高まり、次なる学習につながっていく。」と教員の工夫は必要であるという条件をつけた上で、グループ活動の効果を報告している。また竹中(2000)は、自身の授業改善のため、「授業そのものをあらかじめテーマを与え、グループ学習し発表する方法に切り替えた。」という。その結果「約75%の学生は積極的に取り組み出し、レポート提出も多く、学生の感想としては、大変であったが知識が身につき、新たな発見に喜びを感じることもあった。しかし、25%の学生は従来の教員が授業をするやり方を好んだので、どう対応していくか今後の問題であろう。」と述べている。この結果には、本研究での結果とかなり共通する学生の反応が見て取れる。鷲尾(2000)も述べているように、グループ活動を効果あるものとするためには教員の工夫も必要といえ、今後、さらに検討していく必要があると考えられる。

最後に、仮説の6「選択肢(テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか)があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったかどうか」については、71%の学生が、効果があったとしている。エドワード・L・デシナリチャード・フラスト(1999)は、「内発的動機づけを高める要因とはどのようなものか」(p.43)

を考えるために実験を行っている。その結果、「ポイントは、意味のある選択が自発性を育むという点にある。人は、自ら選択することによって、自分自身の行為の根拠を十分に意味付けることができ、納得して活動に取り組むことができる。同時に、自由意志の感覚を感じることができ、疎外感が減少する。しかも、もし選択の機会が提供されるならば、人々は自分たちが一人の人間として扱われていると感じる。このように、選択の機会を提供することによって、問題をうまく解決することができるのである。」(p. 45) と述べている。A3課題に選択肢があることで「楽しく取り組み、やる気も上がった」などといった学生の記述にも見られる通り、積極的に取り組む上で効果があったと、全体の4分の3程度の学生が肯定的な回答をしたと考えられる。

以上のように、今回の研究では6つの仮説のうち、(1)～(3)がアンケート調査結果を通じて強く支持され、(4)～(6)は一定水準支持されたと考える。そのため、今後は同じ対象者が3年生になった時に、異なった科目においても、今回と同様の結果を示すかどうかを追跡調査しつつ、授業における手書き A3課題の意義やその効果あるいは限界についてさらに検討していきたい。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、査読の上、ご指導をいただきました本学教育学部准教授の野崎健太郎博士に対し、こころより感謝いたします。また授業において本研究を進める上で協力をしていただいた学生の方々にもお礼を申し上げたいと思います。

■引用・参考文献

- エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト：『人を伸ばす力—内発と自律のすすめ—』監訳：桜井茂男 新曜社 (1999)
- 鈴木京子：「Web 教材開発における学びの仕掛けとは何か—中学数学・授業研究からの示唆—」日本教育情報学会第20回年会 pp. 132-133 2004
- 竹中晃子：「生化学特論（専攻科）における授業方法改変の試み」名古屋文理短期大学紀要第25号 p. 103 2000
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践(3)—事前指導でのテーマや事後指導での討論に注目し、学生の主体的学びの促進を目指した改訂版「施設調べ」の試み—」梶山女学園大学教育学部紀要第7号 pp. 187-208 2014a
- 服部次郎：「A3用紙という空間を通じて」梶山女学園大学FD委員会活動報告書第14号 pp. 47-48 2014b
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程における初年次教育としての施設（学校）見学を充実させる事前・事後学習の実践のその後の専門教科への影響について—学生の主体的学びの促進を目指した授業での試み—」梶山女学園大学教育学部紀要第8号 pp. 179-192 2015
- 服部次郎：「保育者・教師養成課程で学ぶ学生の主体的学び（学びの主体性）の促進を目指した授業での試みについて(3)—「手書き A3課題」を授業に3年継続することの意義とその限界—」梶山女学園大学教育学部紀要第11号 pp. 159-203 2018
- 鷲尾敦：「グループ学習の効果をあげるためのグループ作り」高田短期大学紀要30号 p. 55 2012

資料1（記述スペースは削除）
社会的養護2年後期

授業改善とそのための実践研究に向けたアンケートへの協力依頼

2018年1月26日 服部次郎

問1. 今回実施したA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の仕事に役に立つと思いますか。（一番近い番号に○をつけてください）

5	4	3	2	1
とても役に	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
役に立った	役に立った	いえない	役に立たなかった	役に立たなかった

（5・4に○の場合はその理由／例：どんな時、どんな形で役立ったかなど、具体的に記述してください）* 以下、このかっこ内の設問は共通であるために記述を省略する。

問2. A3用紙による課題に取り組むことは、自分自身の「学び」において、どの程度、どのような点で役に立ったと思いますか。

5	4	3	2	1
とても	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
つながった	つながった	いえない	つながらなかった	つながらなかった

問3. 今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の「学び」において、どの程度、またどのような点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
	あった	いえない	なかった	なかった

問4. 「調べ学習」をする際に用いた「手書きA3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、自分自身の「学び」において、どの程度、そのような点で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
	あった	いえない	なかった	なかった

問5. A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などを行うことは効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とてもあった	ある程度	どちらとも	あまり	まったく
	あった	いえない	なかった	なかった

問6. A3課題作成において、選択肢（テキストもしくは教材「光とともに」のまとめ）があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったと思いますか。

5	4	3	2	1
とても役に	ある程度役に	どちらとも	あまり役に	まったく役に
立った	立った	いえない	立たなかった	立たなかった

個人の名前が出ることはありませんので、大学における授業の改善のため、私の研究テーマ「学びの主体性」のため、ご協力いただけるとありがたいです。

資料2. アンケートの自由記述

問1. 今回実施したA3用紙により課題に取り組み、まとめることは、自分の将来の仕事に役に立つと思いますか。

- ・イラストも利用してまとめるというのが保育士になった時も、子どもや保護者にわかりやすく伝える点で大切になると思うから。
- ・情報を限られたスペースにまとめることやキレイに色をつけたり絵を描くということでもまとめる技術があがったと思う。
- ・学んだことを分析して上手くまとめることで理解が深まるため、保育をしていて気になる子がいたら、その子の行動をまとめるなどの場面で役立つと思うから。
- ・掲示物などを作る時の絵を描いたり、園からのおたよりをまとめて読みやすくなると思います。
- ・プレゼンや発表などを思う際に、限られたスペースにまとめる力やイラスト・図等を活用する力が必要になると思う。今回はそれらの力を身につけることができた。
- ・イラストを入れるのに必死過ぎて、内容の充実よりも力を注いでしまうから（評価3とした理由）

問2. A3用紙による課題に取り組むことは、自分自身の「学び」において、どの程度、どのような点で役に立ったと思いますか。

- ・浅い理解だったことも、まとめることで、改めて調べ直して、深く理解することができるから。
- ・まとめていく過程で、その課題への理解が深まる点。
- ・より深く物事を考えることができ、理解が深まった。
- ・「石井十次」も「光とともに」ももう1度調べなおすので、とにかく頭に残っています。それはビデオだけだと得られないのでA3課題をやったからこそだと思います。
- ・内容を深めることができ、その内容を長く覚えていた。
- ・自分で調べながらまとめることで、理解が深まり記憶に残るため。
- ・自分のことばに置き換えてまとめることで、さらに学びを深めることが出来たし、自分が書いたことはテストでもおぼえていた。
- ・興味がでてきた時、もっと知ろうと調べることでより深まり、製作時間をかけるほど、自分のものに愛着がでてきて、ながめて、何度も見てしまうので、理解がしやすい。
- ・自分の「保育観」を考えなおすきっかけになったから。
- ・発表や映像を見ただけでは表面上の理解しか出来ない。活動をふり返り、書き出してみること初めて深く理解することが出来たと思う。特に「施設調べ」は実習の良い準備となった。
- ・自分の手で書いているので内容が自然に頭に入ってきて、ふとしたときに「A3で書いた！」と思い出せる。
- ・ただ授業を受けているだけでなく、自分の言葉でまとめることで、身についたと思うから。
- ・習って知識にまとめて、必要な情報を、より分かりやすく要約する力が身についた。

問3. 今回の「手書きA3課題」作成の際に、パソコン等の機器ではなく、手書きで課題を作成することは自分自身の「学び」において、どの程度、またどのような点で効果があったと思いますか。

- ・完成したときの達成感があることと、見返してみても嬉しいものとなります。
- ・手書きの方が達成感があるし、図を描くことによって個性も発揮できるため。
- ・手を動かしてとり組むことで、パソコン使用のレポート等とはまた別の達成感がありました。

- ・手を動かして作成することにより、覚えることができるし、達成感を味わうことができた。
- ・イラストを上手に描けるようになった。手書きをすることでより記憶に残った。
- ・字を綺麗に書くことや漢字を書くこと、絵を描くことで、自分のスキルアップにつながったため。
- ・限られたスペースでまとめる力やイラストの力が身についた。
- ・保育職についたら、手作りのものをよく作ることにすると感じ、自分が上達していくように感じたから。
- ・まとめるときの構成や配置、デザインを考えるので、見やすく分かりやすいまとめ方とは何かを考えることや、紙をイラストできれいに仕上げることで保育士になった時に、その能力は使えると思います。
- ・見やすく書くこともできるし、分かりやすく、自分の工夫で、配置なども考えて作成できるから。
- ・真っ白な紙に自由に文字やイラストをかくことができたので、デザインをする力が上がったと思う。
- ・視覚的に見やすく、内容的に分かりやすいものになるよう、配置や色を考えることができた。

問4. 「調べ学習」をする際に用いた「手書き A3課題」において、キャラクターも含めた図等を活用することは、自分自身の「学び」において、どの程度、そのような点で効果があったと思いますか。

- ・作るごとに、自分の絵の力が上がっているような気がしたし、かけるキャラクターのバリエーションが増えた。
- ・保育士になった時にこういう風にかいたらかわいく見えるなど自分なりに研究することができた。
- ・絵を描く上での練習になりました。絵がとても上達しました。
- ・絵を書くことが苦手だったが A3をやることでだんだんと書くコツをつかんできた。
- ・色の配色なども含めどうしたら分かりやすくまとめられるのか考えることができた。
- ・キャラクターを描くことによって読み手に興味をもたせやすくなると思う。しかし、一方でとにかく描いてうめるという感じもあり、内容が薄くなっているのでは？

問5. A3課題作成のため、討論・まとめ・発表などをするのは効果があったと思いますか。

- ・討論で話したことをまとめると、理解がより深まるし、自分とはちがった視点で理解できた。
- ・他の人の意見も知ることができ、自分の考えの視野が広がった。
- ・他の人が考えたことをきくことは、自分の学びを深めるきかいになった。
- ・自分では思いつかない、気付かない点も気付き分けることができるのはありがたいです。
- ・自分で調べて発表しているので、すごく覚えている。
- ・自分の知識を最大限に使って、クラスみんなに発表することもできるし、他の子の意見もきけるから。

問6. A3課題作成において、選択肢（テキストのまとめか、教材「光とともに」のまとめか）があったことで課題に積極的に取り組む上で効果があったと思いますか。

- ・選択して書くことで、書きたいことが書けて楽しく取り組めた。
- ・好きな方を選べるということでやる気はあがる。